

ドライブスルー方式による新型コロナウイルス  
PCR 検査の実施手順及び感染対策マニュアル  
第 1 版

令和 2 年（2020 年）5 月

監修 NPO 法人 KRICT

北九州市立八幡病院 感染対策研修センター

## はじめに

本マニュアルは、新型コロナウイルスに対する、ドライブスルー方式PCR検査を実施する施設（以下、センター）における、入場受付から検体採取までの手順及びセンター内の感染対策に関するポイントを、NPO法人KRICTが監修している。今後ドライブスルー方式のPCR検査体制の導入を考えている皆さんの参考になれば幸いである。

なお、本マニュアル内容は、北九州市保健福祉局作成・KRICT監修の「北九州市PCR検査センターにおける、検体採取手順及びCOVID-19感染対策マニュアル ver.1」において、本マニュアル内容の一部を掲載している。

### [1] センター導入時の検討事項

#### 1. センター導入時の検討事項

ドライブスルー方式のセンターを導入する場合、以下の点を関係者間で協議調整しておく必要がある。

##### 1) 設置場所

センター設置場所には、検査のために来場する一定数の車両が駐車できるスペースが必要である。駐車場の広さは検査件数、予約制導入の有無などで異なるが、立体駐車場でも運用可能である。

##### 2) 検査対象者

検査対象者の選定においては、①1日に処理可能な検体数に合わせた検査対象者数をどう選定するか、②検査対象者の必須情報（名前、住所、結果の連絡先、センター内呼び出し用携帯電話番号など）をどのように収集するか、③検査結果がでるまでの間の自宅療養ができるかどうか判断するか等について検討しておく必要がある。本マニュアルでは、1日の検査件数を絞るため、検査対象者は医療機関からの検査申込書を持参した者又は保健所内に設置されている相談センターから紹介された者とした。

#### 検査対象者の条件（医療機関受診または保健所から紹介とした場合）

・検査対象者は、以下のような条件の者とする。	
	(1) 医療機関又は発熱外来等で、COVID-19を疑い、PCR検査が必要と判断された者
	(2) (検査結果がでるまで) 数日間の自宅療養が可能であると医療機関又は保健所(帰国者・接触者相談センター)が判断した者
	(3) 感染者の濃厚接触者
・また、ドライブスルー形式であることから、以下のような条件に該当する者とする。	
	(4) 車で来ることができる者
	(5) センター内での連絡が可能な携帯電話を本人又は同伴者が持っていること

### 3) 出務者数

出務者数、職種については、センターの規模、1日の検査件数で異なる。本マニュアルでは、検体採取箇所を1箇所として、センター入場から検査対象者の本人確認、待機場所への車両の誘導、検査対象者氏名と検体搬送用スピッツのラベル確認、検査時の検温、検体採取と検体保存等の一連の手順に対して、概ね医師1～2名、看護師・コメディカル2～3名、事務職・警備等3～4名の人員配置の規模とした。

### 4) 事前予約と本人確認方法

検体採取を目的とするセンターでは、本人と採取検体の入ったスピッツを確実に一致させる必要がある。また、車から降りることなく検査のみを実施することから、本人確認と住所、電話番号等の情報を入場前に把握しておく必要がある。

以下のような方法により、本人確認及び1日の検査件数を予測することが可能である。

(1) 検査は予約制とし、医療機関が発行する検査申込書（いわゆる紹介状）を事前にセンターにFAXしてもらう。

(2) 検査対象者は、検査当日に検査申込書を持参する。

(3) 検査申込書には、必須項目として、以下の①、②、③の情報を記載してもらう。

①検査対象者の氏名、性別、年齢、生年月日、住所

②検査結果の報告先電話番号

③センター内で利用できる呼び出し用携帯電話番号（当日は、携帯電話の持参が必要）

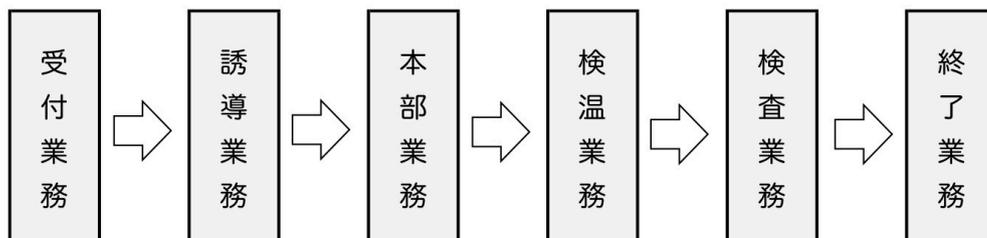
なお、検査結果連絡先と受診当日の携帯番号が同じである場合は、同じと記載する。また、来場時の車種・色・車両ナンバー、1人か、同伴者ありかの情報は本人確認に有用である。

## [2] センター業務の種類と担当者の役割

センター入場から検査終了までの業務を、以下の①から⑥の6つの業務に分けた。

- ① 受付業務（受付係） センター入口で検査申込書による本人確認、受付票配
- ② 誘導業務（誘導係） センター内の車の誘導
- ③ 本部業務（本部係） 予約票、本人確認票、スピッツラベルの作成
- ④ 検温業務（検温係） スピッツと本人確認、検査前の検温
- ⑤ 検査業務（検査係） PCR検査用の検体採取、処理・保管
- ⑥ 終了業務（全員） 検査終了後はPPE装着者で片づけと廃棄物処理、環境消毒

### 6つの業務手順のフロー（別紙資料1）



### [3] センター入場から検体採取までの具体的な業務の流れ

#### 1. 主な業務内容

検査に際して、最も注意すべき点は、採取した検体（スピッツラベルの氏名）と検査を受けた本人を絶対に間違えないようにすることである。本マニュアルの業務手順では、本人確認を複数回行うことで、検体の取り違えを防止する手順としている。

業務内容別の作業区分とおもな業務内容

業務	役割	汚染リスク*	主な業務
①受付業務	受付係	中リスク	・ <b>本人確認</b>
			・かかりつけ医発行の検査申込書の確認
			・センター内の呼び出し用携帯電話番号確認
			・受診票の配布と本部への通知
②誘導業務	誘導係	低リスク	・検査まで待機する駐車場へ誘導
			・停車位置の空き状況を本部へ連絡
			・本部指示で、検査対象者を停車位置へ誘導
③本部業務	本部係	低リスク	・当日の検査予約者のリスト作成
			・予約リストに到着順の受付番号を記入
			・スピッツに本人氏名入りラベル貼付
			・受付番号入りの <b>本人確認票</b> の作成
			・本人確認票+スワブ+スピッツ+パラフィルムをセットし、シューターで、検温係へ渡す
			・検査対象者の携帯電話に車の移動の指示
④検温業務	検温係	中リスク	・受付番号と <b>本人確認</b>
			・検温
			・スピッツラベルの受付番号と本人確認
			・検査対象者の座席（運転席、助手席等）確認
⑤検査業務	検査係	高リスク	・ <b>検査対象本人とスピッツラベルの氏名確認</b>
			・検体採取、検体スピッツの密閉、保管
			・センター内保管冷蔵庫へ検体搬送
⑥終了業務	PPE 装着者	高リスク	・スピッツの冷蔵保管（保健所又は業者回収）
			・医療廃棄物の処理・保管（業者回収）
			・センター内ホットゾーンの環境消毒

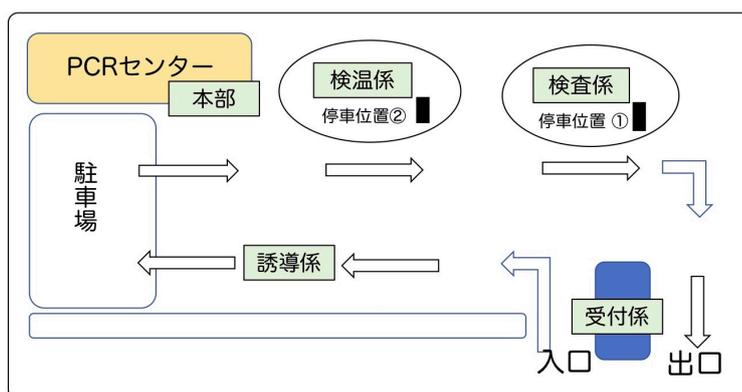
※汚染リスクは、ドライブスルー方式の検査手順におけるコロナウイルス飛沫感染、接触感染リスクを高リスク、中リスク、低リスクの3段階で示した。

## 2. 各業務に必要な物品

業務/場所	防護具（ゾーン分類）	必要物品
受付係	手袋、N95マスク レインコート（ガウ） キャップ ゴーグル（フェイスシールド） （ホットゾーン）	受付票、トランシーバー
検温係		非接触式体温計、トランシーバー
検体係		クーラーボックス、ビニール袋、ジップ付きビニール袋 冷蔵庫（検体採取後のスピッツ保管用）
本部係	サージカルマスク  （コールドゾーン）	予約票、本人確認票、スピッツ、スワブ、バラフィルム、 A4用紙が入る程度のビニール袋、ボールペン等筆記用具、 トランシーバー、冷蔵庫（使用前スピッツ保管用）
誘導係	サージカルマスク	トランシーバー
PPE 着衣場所	（コールドゾーン）	手袋、N95マスク、レインコート（ガウ）、キャップ、ゴ ーグル（フェイスシールド）指消毒剤、ゴミ箱（一般ゴミ）
PPE 脱衣場所	（ホットゾーン）	感染性廃棄物容器、ゴーグル専用容器、手指消毒剤
その他		清掃道具、環境消毒クロス、時計、机、椅子、簡易ベッド、 テント、患者用トイレ、パルスオキシメーター、血圧計など

## 3. 各業務の具体的手順

### 1) センターのレイアウト（事例案）



### 2) 受付業務について（別紙資料1参照）

#### (1) 本人確認及び診療情報の確認

- ・受付係は、検査対象者が持参してきた**検査申込書**を、車の窓越しに確認する。
- ・受付係は、以下の検査申込書の内容に間違いがないか、**無線で本部と確認**を行う。

- ①検査を受ける本人の氏名
- ②検査結果を報告する電話番号及びセンター内待機中の呼び出し用の携帯電話番号
- ③対象者の座席（運転席、助手席、後部座席）

## (2) 受付票の配布

- ・受付係は、本人確認したのち、受付番号が記載された**受付票（参考資料1）**を渡す。
- ・受付票の裏には、「**検査に関する注意事項**」（参考資料2）が掲載されている。
- ・検査を受ける者が、窓際に座るように願います。
- ・原則、受付番号順にするため、受付票は運転席の見えやすい場所への掲示を願います。
- ・駐車場では、一定間隔で駐車禁止のコーンを設置するなどし、他の車両との間隔を空けて駐車するよう願います。
- ・車の移動、待機中に車の窓（特に検査対象者側の窓）を全開にしないよう願います。

以下、業務中の会話例を示す。

係⇒対象者「検査を受けられるのは、あなたでいいですか。運転席の方ですね。」

係⇒対象者「結果の連絡先、本日連絡する携帯電話番号に間違いはありませんか。」

係⇒対象者「受付票を渡します。この番号と名前を呼ばれたら、車を移動して頂きます。」

係⇒対象者「待機中は車から出ないように願います。」

係⇒対象者「隣の車と間が空くように駐車し、窓は全開にしないよう願います。」

係⇒本部係「〇〇さん、本人確認しました。受付番号〇番を渡しましたので、連絡します。」

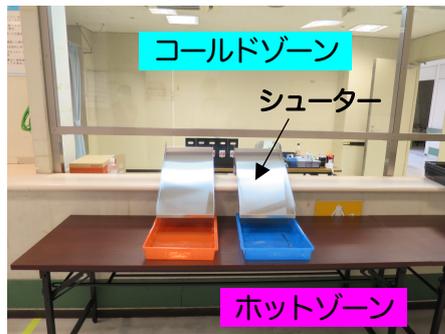
係⇒本部係「予約時の電話番号に間違いありません。検査を受けるのは運転席の方です。」

（注）本部係は、事前に用意している〔予約票〕の名前の横に、無線連絡があった受付番号を記入する。受付番号は、本人確認票、スピッツラベルの本人確認に必要である。

## 3) 本部業務について（別紙資料2参照）

- ・本部の業務は、検査申込書の確認、予約票への受付番号記入、本人確認票、スピッツラベルの作成、待機者の移動指示等である。
- ・本部は、検査申込書の内容に間違いがないか、受付係と無線で情報を確認する。
- ・本部は、受付番号の入った**本人確認票（参考資料3）**を作成する。
- ・本部は、本人確認票+スピッツ+スワブ+パラフィルムをセットにし、シューターを利用して検温係に渡す。本人確認票を取りに来るように、無線で検温係に指示を出す。
- ・本部は、待機者の検査時期が近づいたら、受付番号に従い待機者を携帯電話で移動させる。
- ・誘導係は、停止位置の空き状況を見て、本部へ無線連絡し、待機車の誘導を願います。

### シューターを利用したコールドゾーンとホットゾーンの書類の受け渡し方法



#### 4) 検温業務について（別紙資料2参照）

・検温業務で最も重要な点は、検査対象者とスピッツラベルの氏名が一致していることを確認することである。

##### （1）本人確認と検温

・受付係は、本人確認票とスピッツ、スワブ、パラフィルムがセットされたビニール袋を本部係から受け取る。

・車の窓は、可能な限り全開にしないようにお願いします。

・検査対象者の氏名、スピッツラベルの名前、座席位置を確認する。

・非接触型体温計で、検温を行う。

（熱が高い場合は、本部係に無線で連絡し、本部で本人確認票の原本に検温結果を記入する）

・本人確認票とスピッツラベルの名前が一致していることを確認したのち、セットされたビニール袋を検査係へ渡す。

以下、会話例を示す。

係⇒対象者「お名前を教えてください。検査を受けるのは、ご本人ですね。」

係⇒対象者「体温を測ります。窓を少し開けて、額（おでこ）を出して下さい。」

係⇒対象者「今の体温は〇×℃です。」

係⇒検査係「本人の名前とスピッツラベルの名前は一致しています。本人確認票とスピッツを渡します」

#### 5) 検査業務について（別紙資料3参照）

・検査業務（検体採取及び検体処理・保管）は、受付係の2名で行い、この業務は医療従事者が担当する。

・車の窓は、可能な限り全開にしないようにお願いします。

・本人確認票とスピッツを、検温係から受け取る。

・検査対象者の確認とスピッツラベルの名前の確認を行う。

・検体を採取し、スピッツに検体を入れて、クーラーボックスで保管する。

##### （1）検体採取

・検体採取は2人（係Aと係B）で行う。

・検体採取ができる程度に窓を開けてもらう。

・係Aは、検体採取したスワブをスピッツへ入れ、スピッツの蓋を閉めるまでの操作を行う。

・係Bは、パラフィルムを蓋の上から巻いて、検体を保管するまでの操作を行う。

（検査対象が小児の場合の対応）

・家族の運転で小児が後部座席に乗っている場合は、窓際に座ってもらう。

・ベビーシートの小さな子供さんの場合は、お母さんに後方から頭部を保持してもらい検体を採取する。場合によっては、ドアを開けて採取しなくてはならない場合がある。

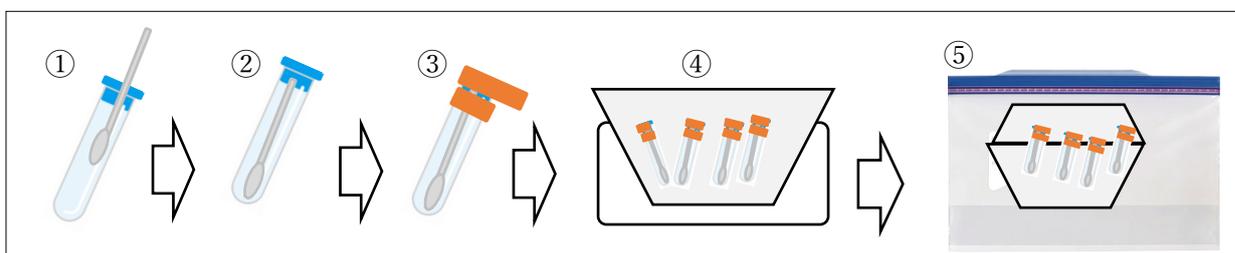
##### （2）検査検体の処理・保管手順について（別紙資料3参照）

検体の保存方法や搬送手段は、保健所と民間の検査センターで異なる場合があるので、事前に確認する。ドライブスルー方式では、煩雑な保管・搬送方法にならないように調整する。

(一般的な手順例)

- ① スワブで検体を採取する。
- ② 綿球部をスピッツへ入れてキャップをする。
- ③ スピッツのキャップの上からパラフィルムで密閉補強する。
- ④ スピッツをクーラーボックスのビニール袋の中に入れる。
- ⑤ 複数本のスピッツが溜まった時点でビニール袋の蓋を閉じる。
- ⑥ 清潔な大きめのビニール袋に、複数のスピッツが入ったビニール袋を収納する。
- ⑦ スピッツが入ったビニール袋をセンター内の冷蔵庫に保管する。

#### 検体処理と保管手順



以下、会話例を示す。

係⇒対象者「お名前を確認します。」

係⇒対象者「PCR 検査の検体を採取させていただきます。」

係⇒対象者「この綿棒を鼻の奥へ入れて検査をします。直ぐ終わりますが、痛かったら言ってください。」

係⇒対象者「検査はこれですべて終わりました。センターを出られたら、寄り道せずに自宅に帰り、結果が出るまでは自宅で待機してください。」

#### 6) 終了業務 (別紙資料4 参照)

- ・終了業務は、出務者が協力して行う。
- ・ホットゾーンでの片付けは、個人防護具を装着している出務者が行う。
- ・おもな業務は、各部署で使用した物品の片付けと頻回接触部位の環境消毒である。
- ・受付場所の片付けと環境消毒を行う。
- ・検温場所のテーブル、体温計 (非接触型) の片付けと環境消毒を行う。
- ・検査場所のテーブル、クーラーボックス、感染性廃棄物容器等片付けと環境消毒を行う。
- ・感染性廃棄物容器は、蓋を閉めて外側を消毒した後、指定された保管場所に保管する。

## [ 4 ] PCR センター業務活動における感染対策

### 1. 出務者の健康チェック

センター出務者は、全員が出務前の健康チェック（検温とかぜ症状の有無を申告し、健康チェック票に記載する。

（参考資料4）



### 2. 出務者の个人防护具 (PPE) について

標準装備は、手袋、ガウン、N95マスク、ゴーグル（又はフェイスシールド）、キャップ、シューカバー（必要時）である。本マニュアル作成時期は、ガウンが最も不足していたことから、レインコートを後ろ前に着用することでガウンの代わりとした。検査対象者は車から出ないため、シューカバーの着用は必須ではない。

受付・検温・検査係等	誘導係等
受付、検温、検体採取、保管等の業務	警備、交通整理等に従事
手袋（二重）、レインコート（ガウン）、N95 マスク	サージカルマスク
ゴーグル（フェイスシールド）、キャップ	ゴーグル（粉塵対策として）

#### (1) 个人防护具 (PPE) 着衣の手順と注意点

- ・个人防护具の着衣は、コールドゾーンで行う。
- ・个人防护具を取り出すまえに、手指衛生を行う。（共用する物品を汚染させないためである。）
- ・シューカバーを付ける場合は、最初に着用する。
- ・レインコートは後ろ前に着るため、背側ボタンが留めにくいときは介助者に手伝って貰う。

- ・内側手袋をレインコートの袖の上から装着する。

レインコートは袖口が広いので、レインコートの袖の上から手袋を着けて、袖と手袋が離れないよう、密着させて縦に2～3箇所、ガムテープで留める。（PPE 着衣手順（写真版）参照）

- ・受付係、検温係、検体係は、ガムテープで固定した手袋（内側手袋）の外側に、さらにもう一つ手袋（外側手袋）を着ける。（二重手袋）

- ・N95 マスク、キャップ、ゴーグル（フェイスシールド）の順で装着する。



誘導係等 PPE



医療従事者等 PPE

#### (2) 个人防护具 (PPE) 脱衣の手順と注意点

- ・个人防护具の脱衣は、ホットゾーンで行う。
- ・レインコートと手袋は、ガムテープで固定された状態なので、一緒に外す。
- ・レインコートのボタンは引っ張ってもボタンが外れにくいので、コールドゾーンから手袋を着けたスタッフにボタンを外して貰う。（PPE 脱衣手順（写真版）参照）
- ・レインコートと手袋は一緒にして、感染性廃棄物容器に捨てる。
- ・首から上の个人防护具を外す操作のまえに、手指消毒を行う。

- ・ゴーグル・キャップ・N95を外す。
- ・ゴーグルを消毒再利用する場合は、ゴーグル専用の容器に入れる。
- ・キャップとN95マスクを外し、感染性廃棄物容器に捨てる。
- ・个人防护具を脱いだ後に、再度手指消毒を行い、コールドゾーンに移動する。

### 个人防护具（PPE）の着衣手順（写真版）

个人防护具の着衣はコールドゾーン内で行い、①シューカバー（必要時、必須ではない）、②レインコート（ガウン）、③N95マスク、④キャップ、⑤ゴーグル（フェイスシールド）、⑥手袋の順で装着する。

#### 1. シューカバー着用について（必須ではない）

- ・シューカバーの装着は必須ではないが、希望者が着用できるように準備する。
- ・シューカバー着用時は、固定のヒモやゴムが活動中ほどけないようにしっかり固定する。

#### 2. レインコート着用について（ガウンの代替え）

- ・レインコートは、ガウンの代替えであるため、後ろ前に着る。
- ・フードは内側に織り込むか、またはハサミで切ってしまう。
- ・後ろのボタンが留めにくい場合は、介助者に留めてもらう。

①フードは内側に織り込む



②後ろ前に着る



③ボタン止めは介助を



#### 3. 手袋着用について

・レインコートの袖口が広いので、皮膚が露出ないように、また袖と手袋が離れないように袖を被覆するように、手袋（一重、内側手袋）を着用する。

- ①→②袖を手袋の中に入れ袖の上から手袋着用      ③ガムテープで固定（一重）      ④二重手袋の場合



## 個人防護具の脱衣手順（写真版）

個人防護具の脱衣はホットゾーン内で行い、①シューカバー、②手袋とレインコート（一括して）、③手指衛生、④ゴーグル又はフェイスシールド、⑤N95 マスクの順で外す。

### 1. シューカバーを外す

・ホットゾーン内のイスに座るか、転倒しない状態で最初にシューカバーを外す。

### 2. レインコートと手袋を外す（別紙資料4参照）

① 後ろ前に着たレインコートのボタンを外すときにユニフォームが汚染するため、ボタンはコールドゾーン職員（介助者）が外す。

② レインコートと手袋はガムテープで固定しているため、コート前面を触らないように、内側から丸めるようにして、袖と手袋を一緒に脱ぎ、感染性廃棄物容器へ入れる。

③ 介助者は、手袋を指定の感染性廃棄物容器に捨てたのち、手指衛生を行う。



①



②



③



### 3. ゴーグル、キャップ、マスクの廃棄

・レインコートを外した後に一度手洗いを行い、N95 マスク、キャップ、ゴーグルを外す。

・手袋、レインコート（ガウン）、N95 マスク、キャップ、シューカバーを感染性廃棄物容器へ入れる。

・使用したゴーグルを再消毒する場合は、ゴーグル専用の容器に入れる。

制作・監修

NPO 法人 KRICT・北九州市立八幡病院 感染対策研修センター

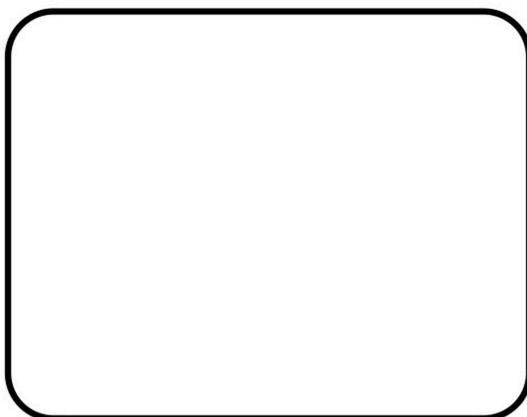
担当：伊藤重彦、中川祐子、山田友美、松本哲朗

作成日：令和2年5月（2020年）

参考資料1. 受付票

あなたの

受付番号は



です

必ずお読みください

センター職員と話をするときには、  
窓を全開にしないようお願いします。

- ・ 受付票は運転席の見える場所に置きます。
- ・ 検査の順番がきたら、携帯電話番号に連絡しますので、指定された停車位置まで移動してください。
- ・ 検査を受ける方は窓際に座ってください

検査が終わったら、すべて終了です。  
速やかに、出口からお帰りください。

## 参考資料2 「PCR 検査後の注意点」

### PCR検査後の注意点

1. 検体採取が終わると検査はすべて終了です。近隣の食料品店やコンビニなどに立ち寄らず、速やかにご帰宅頂きますよう、お願いします。
2. 自宅待機中に高熱、息苦しさなど具合が悪くなった場合は、かかりつけの先生に相談して、早めに医療機関を受診しましょう。
3. 本日お伺いした連絡先に結果のご連絡をします。結果がでるまでに数日かかる場合があります。
4. 検査結果がでるまでは、職場への出勤、学校への登校、福祉サービスの利用、買い物等は控え、自宅で過ごしましょう。
5. 体力や免疫力が低下している同居者がおられる場合は注意が必要です。以下の感染予防対策をお願いします。
  - (1) 本人、ご家族は、自宅でもマスクを着用しましょう。
  - (2) 本人、ご家族は、流水と石鹸による手洗い、アルコール手指消毒を行いましょう。
  - (3) 可能であれば、部屋を分けて過ごしましょう。

参考資料3 本人確認票

本人確認票

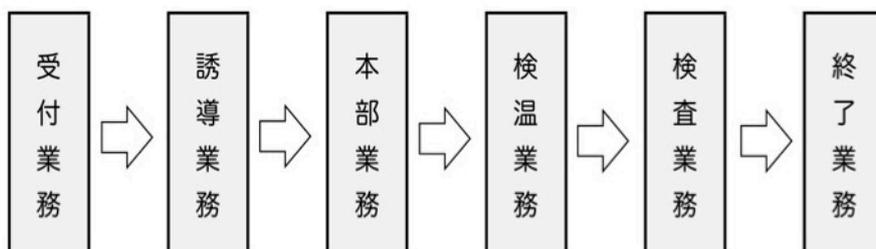
受付番号	3
名前	(カタカナ) ヤマト タロウ
年齢	〇〇 歳
性別	<input checked="" type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
呼び出し用 携帯番号	— —
検査対象者 乗車位置	<input checked="" type="checkbox"/> 運転席 <input type="checkbox"/> 助手席 <input type="checkbox"/> 後部座席
検温	℃ (必要時、本部へ報告)
備考	到着時間 ( : )

## 参考資料4 健康チェック票

	日時： 月 日	センター出務者 健康チェックシート	検温（数値）	確認者サイン 印
	氏名	職種（○を付ける）		かぜ症状
1		医 師 看護師 検査技師 薬剤師 事務職 その他	℃	あり なし
2		医 師 看護師 検査技師 薬剤師 事務職 その他	℃	あり なし
3		医 師 看護師 検査技師 薬剤師 事務職 その他	℃	あり なし
4		医 師 看護師 検査技師 薬剤師 事務職 その他	℃	あり なし
5		医 師 看護師 検査技師 薬剤師 事務職 その他	℃	あり なし
6		医 師 看護師 検査技師 薬剤師 事務職 その他	℃	あり なし
7		医 師 看護師 検査技師 薬剤師 事務職 その他	℃	あり なし
8		医 師 看護師 検査技師 薬剤師 事務職 その他	℃	あり なし
9		医 師 看護師 検査技師 薬剤師 事務職 その他	℃	あり なし
10		医 師 看護師 検査技師 薬剤師 事務職 その他	℃	あり なし
11		医 師 看護師 検査技師 薬剤師 事務職 その他	℃	あり なし
12		医 師 看護師 検査技師 薬剤師 事務職 その他	℃	あり なし

## 別紙資料1—センターの6つの業務

### PCRセンター6つの業務手順のフロー



- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| ① 受付業務 (受付係) | 本人・携帯電話番号・座席の確認 |
| ② 誘導業務 (誘導係) | 待機駐車場、指定停車位置へ誘導 |
| ③ 本部機能 (本部係) | 本人確認票・スピッツラベル作成 |
| ④ 検温業務 (検温係) | 本人とスピッツラベル確認・検温 |
| ⑤ 検査業務 (検査係) | 検査用検体採取・検体処理・保管 |
| ⑥ 終了業務 (全員)  | 検体保管・廃棄物処理・環境消毒 |

© SHIGEHICO ITO

Kitakyushu City Yahata Hospital

### 受付業務



- ① 医療機関が発行した検査申込書を確認する。
- ② 検査時に呼び出すための携帯電話番号を確認する。
- ③ 受付係⇒本部（無線通信）検査対象者に渡した受付票の番号を通知する。
- ④ **受付票は、運転席の見えやすい場所に置いてもらう。**

あなたの受付番号は

3

必ずお読みください

- ・立体駐車場でお待ちください
- ・検査の順番がきたら、携帯番号に連絡が来ます。
- ・指定された停車位置（2番又は3番）まで移動して頂きます。
- ・この紙は車の見える場所（フロント）に置いてください



© SHIGEHICO ITO

Kitakyushu City Yahata Hospital

## 別紙資料2—本部業務・検温業務

### 本部業務

受付業務

⇒

誘導業務

⇒

本部業務

⇒

検温業務

⇒

検査業務

⇒

終了業務




- ① 受付表に、受付番号を記入する。
- ② 受付番号の入った本人確認票を作成する。
- ③ 本人確認票+スピッツ+スワブ+パラフィルのセットをシューターで検温係に渡す。
- ④ 検査の順番が近づいたら、携帯電話で待機中の車の移動をお願いする。
- ⑤ 誘導係に連絡し、車の移動を伝える。



受付番号	3
名前	(カタカナ) ヤマト タロウ
年齢	75 歳
性別	<input checked="" type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
呼び出し用 検温番号	— —
検査対象者 座席位置	<input checked="" type="checkbox"/> 運転席 <input type="checkbox"/> 助手席 <input type="checkbox"/> 後部座席
検測時体温	℃ (37.5℃以上の場合はのみ測定)
呼吸障害	% (呼吸音のある場合のみ測定)
備考	本人確認票

© SHIGEHICO ITO
Kitakyushu City Yahata Hospital

### 検温業務

受付業務

⇒

誘導業務

⇒

本部業務

⇒

検温業務

⇒

検査業務

⇒

終了業務

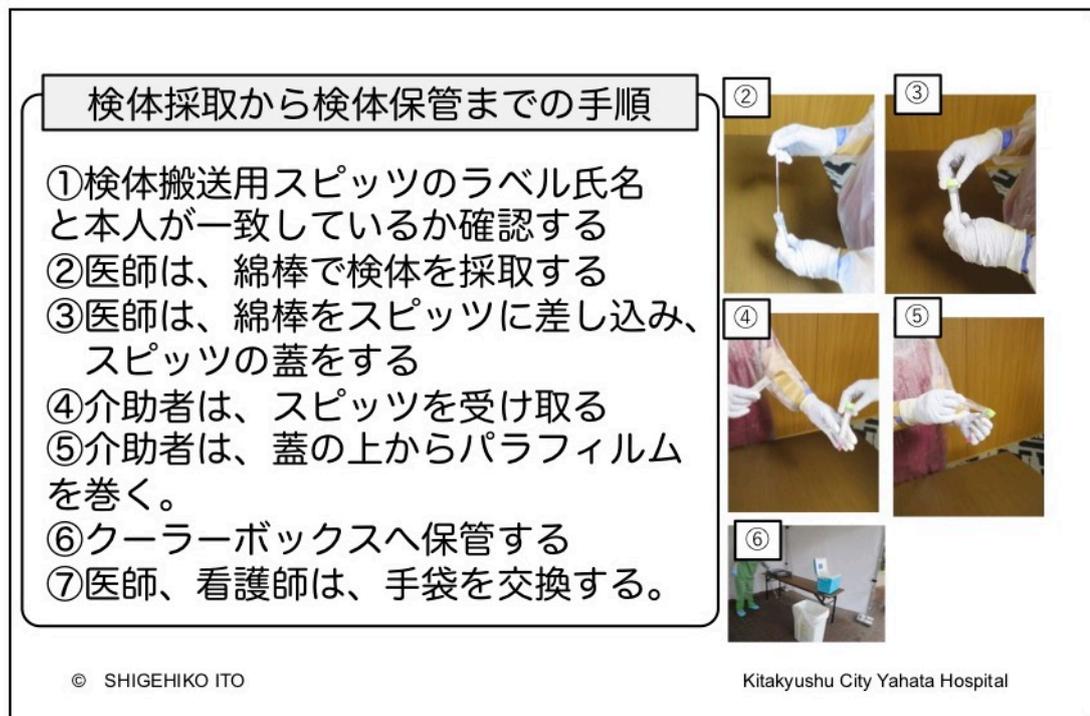



- ① 本部が準備した、本人確認票+スピッツ+スワブ+パラフィルムをシューターで受け取る。
- ② 本人確認票の氏名とスピッツラベルの氏名が一致しているか確認する。  
また、検査対象者の座席位置を確認する。
- ③ 非接触型体温計で検温したのち、本人確認票とスピッツを検査係へ渡す




© SHIGEHICO ITO
Kitakyushu City Yahata Hospital

## 別紙資料3—検査業務と検体採取手順



## 別紙資料4—終了業務と防護具の脱衣手順

**終了業務**

受付業務

➡

誘導業務

➡

本部業務

➡

検温業務

➡

検査業務

➡

終了業務







医療廃棄物の処理と保管庫へ移動、ホットゾーンの環境手毒

© SHIGEHICO ITO
Kitakyushu City Yahata Hospital

**ホットゾーンで个人防护具を外す—レインコートの脱衣手順**









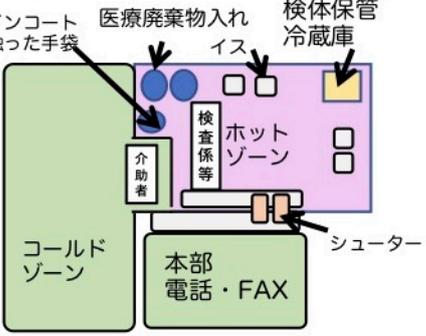
介助者は手袋のみ着用して、コールドゾーンから活動者のレインコートのボタンを外す（介助する）







介助者は手袋を外して、手指衛生を行う



レインコートに触った手袋  
 医療廃棄物入れ  
 検体保管冷蔵庫  
 ホットゾーン  
 コールドゾーン  
 本部 電話・FAX  
 シューター

© SHIGEHICO ITO
Kitakyushu City Yahata Hospital